幼保小連携・接続モデル実施園公開研修会 報告書【幕張第二保育所】

日　時　：　平成 30 年 2 月 13 日（火）15:00～17:00
場　所　：　幕張第二保育所

参加者数

種別	園(校)数	参加人数
私立幼稚園（認定こども園）	７	８
民間保育園（認定こども園）	１９	２１
公立保育所（認定こども園）	３８	３８
小学校	３	５
その他（大学・千葉県など）	６	１０
合計	７３	８２

千葉市の幼保小連携･接続の取組(千葉市幼保支援課)

資料に基づき、千葉市幼保支援課から説明

モデル実施園の取組成果発表(幕張第二保育所)

≪細野所長･安田主任･重田先生(年長担任)から成果発表≫

○　保育所では、主な就学先である幕張東小学校と交流を行っていたが、年 1 回の交流会や避難訓練への参加など、小学校側が主体の活動であり、保育所は受け身であった。

○　コーディネーターの助言のもと、職員同士の勉強会などの企画を要することではなく、おたよりの交換や散歩の立ち寄りなど、すぐに始められることから取り組んでみることとした。

○　公立保育所では、生活の根拠であるクラスを 3･4･5 歳児混合のクラス編成、縦割り保育を実施している縦割り保育のメリット･デメリットを今一度整理し、どのように月の指導計画に落とし込んでいくかを検討。

○　9 月までの指導計画では、「内容」「環境構成」を 3 学年共通の枠で、「保育者の援助･配慮」をそれぞれの年齢で記載する様式だったが、子どもたちにどのように育ってほしいのかという視点が記載されておらず、保育者主導の指導計画になっていることに気付いた。「環境構成」には保育者の配慮が含まれること、「予想される子どもの姿」には子どもたちにどのように育ってほしいのかを示しておくことが重要と考え、指導計画の様式の見直しに着手。

○　指導計画の変更について、まずは「内容」や「環境構成」を年齢別に記載し、「学年」で意識できるようにした。また、「前月までの子どもの姿」から「ねらい」を考え、それを達成するための「環境構成」(物的環境･人的環境)を考え、それにより、こんな子どもの姿が見られるのではないかという「予想される子どもの姿」を記載するという、指導計画を考えるプロセスを確認した。

○　「保育者の援助・配慮及び環境の再構成」の欄は、配慮の必要な子どもに対する援助や、予想を超えた子どもの姿が見られたときに、どう環境の再構成をするのかを記す欄とした。

○　9 月までの指導計画では、子ども一人一人の気持ちや状況に合わせてと思い、3 学年共通の枠を使っていたが、それが活動に対する「ねらい」の曖昧さを生んでいたことに気がついた。

○　また、経験の浅い保育士から、「ねらい」から「環境構成」を考えることが難しいとの意見があり、12 月の指導計画から、「活動内容」欄を設けることとした。これについては、活動ありきの保育、保育者主導の保育とならないよう、園内で共通認識を図る必要がある。

○　子どもたちから「1 年生が掃除しているのを見たい」との声があがったことを受け、小学校に依頼し、1 年生の掃除の様子を見学させてもらった。見学をしたことで、子どもたちが小学生に憧れを持つとともに、掃除のやり方にも変化が見られた。また、食べこぼしにも気を配るようになり、食事のマナーにも気を付けるようになった。このように、小学校との交流では、子どもたちの主体性を大切にすることの大切さに気付いた。

○　さらに、レストランごっこの招待状を書いて文字に興味を持つところから派生して、子どもたちが郵便に興味を持ち始めた。そこで、子どもたちと郵便局に伺って職員の方に様々なことを教えてもらい、保育所の中だけでは得られないものを学ぶことができた。保育者が質問に答えることは簡単だが、こうして社会の中にでて、自分達で答えを得る経験は小学校での学びにつながるのではと考える。

○　アプローチカリキュラムを作成して 10 の姿を意識することで、ひとつの活動に対して違う視点やアプローチの仕方を考えるようになり、目の前の子どもの姿を見て保育を考えられるようになった。

○　指導計画については、5 歳児だけでなく、3・4 歳児の内容も見直し、10 の姿を当てはめ、どの部分が働きかけとして足りないのか把握するようにしている。さらに、3 歳未満児クラスについても、指導計画立案のプロセスを合わせるにするため、指導計画の項目を 3 歳以上児のものと統一のものにした。

○　次年度以降、小学校との交流は、就学先のすべての小学校と何らかの形で関りを持てるようにしたいと思う。また、1 年生の授業参観や、教職員同士の意見交換も実施していきたい。

○　モデル実施園として目に見えて保育が変わったわけではないが、10 の姿があることで偏りのない活動を提供しようという意識が持てるようになった。これにより職員の意識が変わり、具体的なねらいを持つことで、子どもへの関わりも変わってきたことを感じている。

近隣小学校からのお話（幕張東小学校　山形校長・田口先生・村松先生）

○　小学校の職員が保育所に来て、子どもの様子を見る機会はまだ少ないと思うので、時間を見つけて、取り組めるとよい。

○　子どもたちの何気ないつぶやきを拾って、小学校につなげてもらうことは非常に大切。子どもたちがやりたいと思ったことがスタートであり、まずは小学校に連絡していただきたい。手順を踏んできっちりと企画するよりは、軽い感覚でできることを一緒にやっていくことが大事だと感じている。

○　子どもの想いをもとに、様々な経験を通して学ぶように支援していくことは、保育所の先生はスペシャリストであり、小学校の教員も学ぶことが多い。お互いの良い点などを取り入れて連携していくと、より良い連携・接続ができると思う。

○　小学校にいると 1 年生は 1 番下の学年の子という目で見てしまいがちだが、実際に年長児を見ると、自分のことを自分でできているということがわかった。小学校でもスタートカリキュラムを作成し、入学後に子どもが小学校生活に慣れ親しんでいけるようにしており、今後の参考にしていきたい。

カリキュラムコーディネーターからのお話（千葉大学教育学部　松嵜洋子　教授）

○　保育所の生活は遊びと生活の中で成り立っており、遊びの部分はこれまでも交流があったが、掃除や給食などの生活の部分でつながったのは大きな成果。子どもの疑問に応える感じで丁寧に接続に取り組んだ保育所、そしてそれに対応してくれた小学校、相互にとって良い接続の取組みになったと思う。

○　子どものつぶやきを拾って交流や接続がされたこと。保育所保育指針の「子ども主体」、学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」にもあるように、子どもたちが自分たちの気付きを深めていき、いろいろな新しい疑問が出てきて、それをなんとか解決していこうという姿が見られた。年長児も後半になると目的を持って行動できるようになってくるので、ただ小学校に行くのではなく、何のために行くのかを明確にした方が、より深い学びへとつながっていく。

○　接続期のカリキュラムなどは、作成することで満足してしまう面があるが、保育士の想いを実現していけるような指導計画を考えること、保育を活かすことができる指導計画が求められている。幕張第二保育所では、どのような指導計画が最も適しているかを良く考え、短い期間に何度も様式を変更したことは素晴らしい。

○　今後どのように取組みを継続するかについて、今年の成果を踏まえて保育のハードルを上げてしまいがちになるが、年ごとに事情も変わるので、無理がなく細く長く継続できるような、交流計画や指導計画を立てて、それによって連携・接続が定着していく。

○　子どもたちが学んでいく力・育っていく力を、どのような場面でどのように引き出していくかが、これからの教師や保育者に求められる。幕張第二保育所が、内容ではなく、子どもの姿により沿ったことが最も大きな成果であったと思う。

質疑応答

Q：指導計画の中で 10 の姿を意識した点について、どのように保護者に説明していったのか。

A：小学校に入るための練習という捉え方ではなく、小学校への入学に向けて、子どもの育ちの段階を踏んで接続を図るようにしている旨、保護者懇談会で説明している。10 の姿までは説明していない。

Q：「予想される子どもの姿」に 10 の姿を落とし込んでいくなど、カリキュラムの作成にあたり、特に保育所内で心掛けたことは何か。

A：10の姿を当てはめようとすると、すべての項目に当てはまるように思える。そうすると、視点がぼやけてしまうので、活動ごとに特に育てたい視点を明確にして、10の姿のうち 2～3 の項目に絞り込むよう心掛けた。

Q：研修会に参加して、幼保と小の段差は、そこに携わる者の考え方で大きく変わることを実感した。取組みを市全体に普及して、子どもたちがどこの幼稚園・保育所などに通っても、同じような教育が受けられるようになることを願っている。（感想）

≪アンケート結果≫

1　参加者情報（アンケート記入者）

私立幼稚園（認定こども園）	民間保育園（認定こども園）	公立保育所（認定こども園）	小学校	その他	合計
7	21	37	5	8	78

2　公開研修会の内容について

①大変参考になった　②参考になった　③あまり参考にならなかった　④参考にならなかった　⑤どちらともいえない　⑥未記入

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
千葉市の幼保小連携・接続の取組み	39	35	1	3	0	0	78
モデル実施園の取組成果発表	55	19	1	1	2	0	78
近隣小学校からのお話	33	33	3	0	3	6	78
ｶﾘｷｭﾗﾑｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰからのお話	56	15	0	1	2	4	78

3　公開研修会全体について（理解の深度）

①そう思う　②まあそう思う　③あまりそう思わない　④そう思わない　⑤未記入

	①	②	③	④	⑤	合計
幼保小連携・接続への理解	53	25	0	0	0	78
取組みにおける理解	36	39	2	0	1	78
カリキュラム作成・見直しの参考	58	17	0	0	3	78

4　最も印象に残った内容／カリキュラム作成・見直しにあたり参考になった内容（抜粋）

- 保育所の先生方が子どもの姿をとらえてカリキュラムを作成し直していった経緯。子どもたちのつぶやきから小学校の交流や郵便局への見学など具体的な実践が生まれたところ。とても学びになりました。小学校の先生方の話、松嵜先生の話全てがつながった、とても中味の濃い会でした。
- 実践報告がとても具体的でアプローチカリキュラムは構えてやることではなく子どもの声、子ども主体の取り上げ方等大変参考になった。保育士さんの実践力、総括主任保育士さんのまとめあげる力の素晴らしさに感動しました。
- 子どものつぶやきを拾い、それをすぐに実行できる環境にあることが素晴らしいと思いました。子どもと接している保育士の意識、受け入れる小学校側の意識が高いからこそだと思いました。小学校との交流はどうしても受け身になりがちな現況がある中、取組みにあったように、散歩等、身近なところから取り入れていけるようにしたいと思います。
- 主体的・対話的、「子ども主体」という言葉が多くあり、自分でもそうしているつもりであったが、どこが保育者側からの願いとなっている部分も多かったと思う。作成、見直しをする面で「子ども主体」ということを念頭に入れ作成していきたいと思った。
- カリキュラムに10の姿をあてはめていく事により、保育士の意識も明確になる点。小学校の窓口設置により、やり取りがスムーズである事。交流会だけてなく、生活の中で、子ども発信の交流の場を設けていくことにより、学びを育てる環境をつくる。この大切さをとても感じました。
- 小学校との接続はとても大切なことですが、受け入れる小学校の事情もあり難しいです。松嵜先生の「細く、長く」という言葉が印象的でした。
- スタートカリキュラムを作成する上で、目標や活動内容について設定する指針ができたと思いました。見せていただいたカリキュラム等を参考にしながら小学校の方でも受け入れる準備をしたいと思いました。

5　研修会全体に対する意見・感想（抜粋）

- 実践事例はとても楽しく、きいていてワクワクした。自分は担任という立場ではないが、若い保育士がこどものつぶやきに耳をかたむけ、それを保育士自身が楽しみながら子どもと一緒に広げていける手助けを自身の役割として意識していきたい。
- 小学校との交流は年に何回か取り組んでいるが、小学校側からの交流であり受け身であった。学校へ行ってみて子どもの感想や気づきの声にもっと敏感になり、小学校の働きかけていくことの必要性を感じた。所長として、保育所と小学校との窓口になれるようにしていこうと思った。
- 指導計画を書く際に保育者のねらいにならずに子ども主体で考え、達成できるにはと考えること。また、計画を立てるときに保育者も楽しんで、よりよい保育になるように計画を立てること学んだ。
- 幼保小連携をするにあたっても、子どもの思いを大切に活動を計画するということが大切だと感じました。またこのような連携を行うためには、保育所と小学校、幼稚園と小学校の職員がしっかりと連携しておくことが重要だと感じました。
- 子どもたち同士の交流も大切ですが、職員同士の交流も大切だということがわかりました。時間をとることは難しいと思いますが、まず「いつ」「何を」交流し合うのかを自校でも定着させられれば良いなと思いました。